

平成29年 北九州港 港湾統計概要（確定値）について

平成29年に北九州港と内外諸港との間に出入りした船舶、貨物、人員などの利用状況を、統計法に基づく港湾調査規則により調査した結果を報告する。

1. 海上出入貨物取扱量

海上出入貨物取扱量については、101,500,369トンで、前年比103.0%となった。外国貿易貨物量は前年比100.3%、内国貿易貨物量は前年比104.4%となった。

（単位：トン）

		平成29年	平成28年	前年との増減	構成比	前年比
外国貿易	輸出	7,385,345	7,215,125	170,220	7.3%	102.4%
	輸入	25,051,198	25,138,920	-87,722	24.7%	99.7%
	合計	32,436,543	32,354,045	82,498	32.0%	100.3%
内国貿易	移出	32,599,195	31,183,614	1,415,581	32.1%	104.5%
	移入	36,464,631	34,989,476	1,475,155	35.9%	104.2%
	合計	69,063,826	66,173,090	2,890,736	68.0%	104.4%
合計		101,500,369	98,527,135	2,973,234	100.0%	103.0%

国内他港との比較（速報値）においては、①名古屋 ②千葉 ③横浜 ④苫小牧 ⑤北九州であり、全国第5位である。

2. 入港船舶

入港船舶隻数は54,929隻で前年比99.8%、総トン数は100,861,030トンで前年比103.4%となった。

（単位：隻・総トン）

		平成29年	平成28年	前年との増減	構成比	前年比
隻数	外航船舶	4,387	4,424	-37	8.0%	99.2%
	内航船舶	50,542	50,627	-85	92.0%	99.8%
	合計	54,929	55,051	-122	100.0%	99.8%
総トン数	外航船舶	57,334,120	54,014,811	3,319,309	56.8%	106.1%
	内航船舶	43,526,910	43,494,739	32,171	43.2%	100.1%
	合計	100,861,030	97,509,550	3,351,480	100.0%	103.4%

3. コンテナ貨物取扱量

コンテナ貨物取扱量は、海上出入貨物取扱量の8.4%を占める。

コンテナ個数は、546,182TEUで、前年比105.6%となった。

(1) コンテナ貨物取扱量

(単位：TEU)

		平成29年	平成28年	前年との増減	構成比	前年比
国際 コンテナ	輸出	259,373	246,588	12,785	47.5%	105.2%
	輸入	240,995	223,338	17,657	44.1%	107.9%
	合計	500,368	469,926	30,442	91.6%	106.5%
国内 コンテナ	移出	17,148	13,656	3,492	3.2%	125.6%
	移入	28,666	33,715	-5,049	5.2%	85.0%
	合計	45,814	47,371	-1,557	8.4%	96.7%
総計		546,182	517,297	28,885	100.0%	105.6%

外貨コンテナにおける国内他港との比較(速報値)は、①東京 ②横浜 ③神戸 ④名古屋 ⑤大阪 ⑥博多 ⑦北九州であり、全国第7位である。

(2) 地区別コンテナ貨物取扱量

(単位：TEU)

地区名	平成29年	平成28年	前年との増減	構成比	前年比
門司地区	507,190	474,816	32,374	92.9%	106.8%
小倉地区	843	870	-27	0.1%	96.9%
若松地区	38,149	41,611	-3,462	7.0%	91.7%
合計	546,182	517,297	28,885	100.0%	105.6%

4. フェリー輸送

フェリーの貨物量は海上出入貨物取扱量の44.5%を占め、前年比105.2%となった。

また、乗降客数についても、前年比102.8%となった。

(1) フェリー貨物量

(単位：トン)

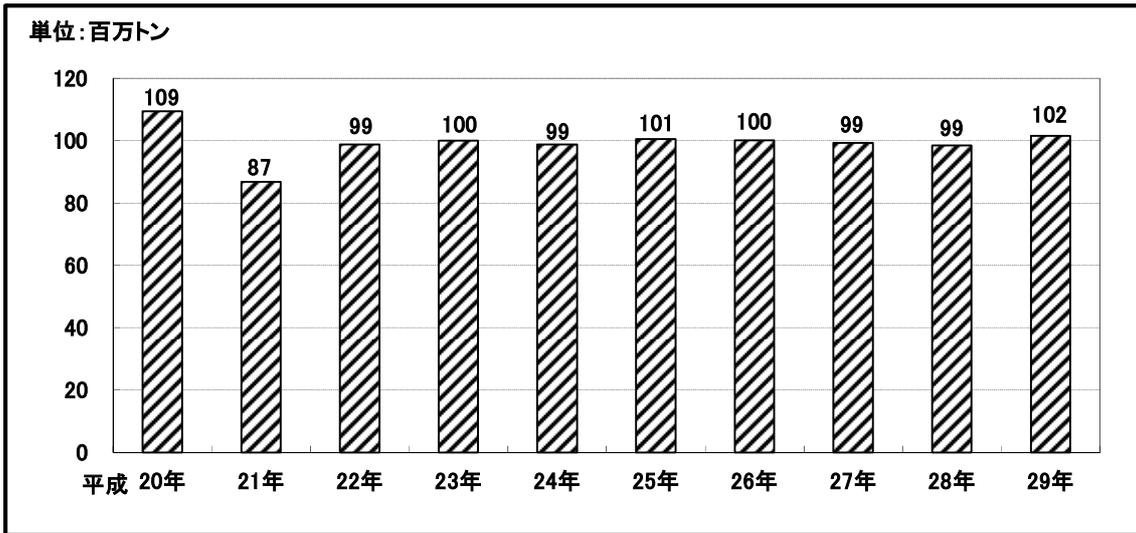
	平成29年	平成28年	前年との増減	前年比
移出	22,238,495	21,068,455	1,170,040	105.6%
移入	22,977,880	21,898,940	1,078,940	104.9%
合計	45,216,375	42,967,395	2,248,980	105.2%

(2) フェリー乗降客数

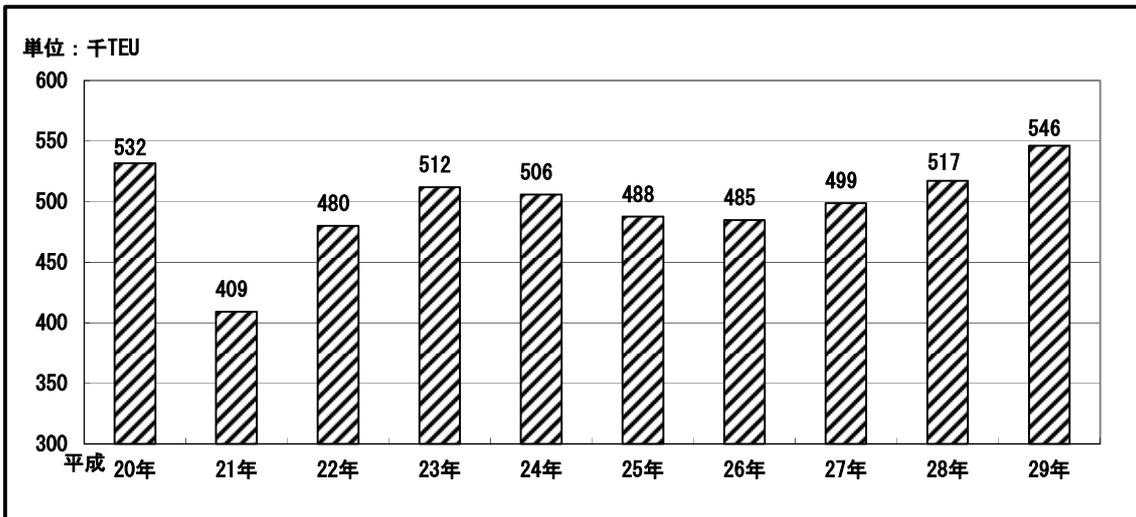
(単位：人)

	平成29年	平成28年	前年との増減	前年比
移出	512,863	495,064	17,799	103.6%
移入	497,262	487,712	9,550	102.0%
合計	1,010,125	982,776	27,349	102.8%

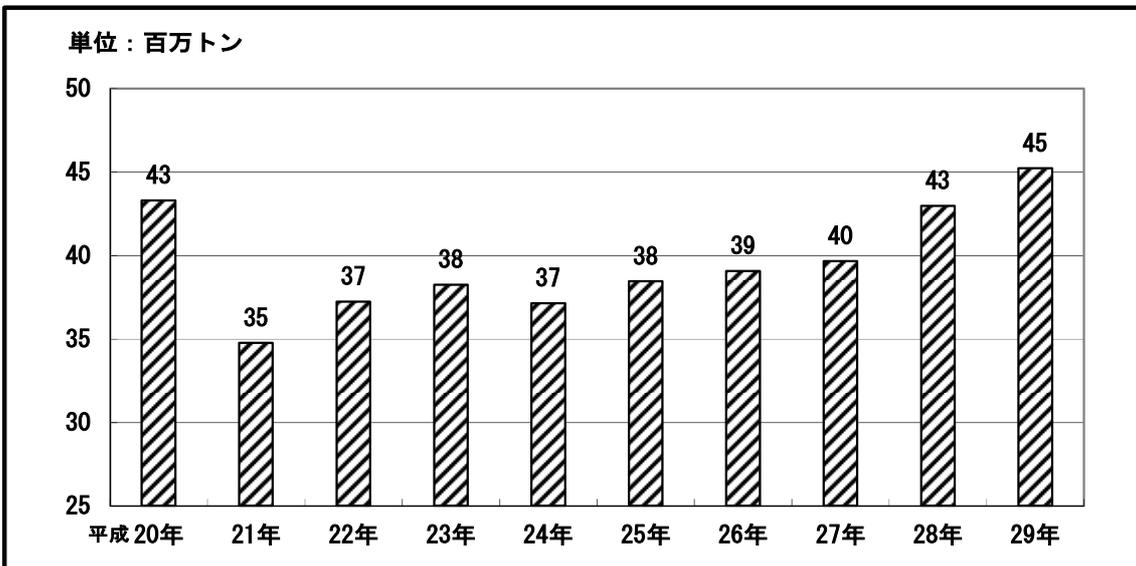
海上出入貨物取扱量の推移



コンテナ貨物取扱量の推移



フェリー貨物取扱量の推移



海上出入貨物取扱量

(1) 相手国（地域）別

（単位：トン）

順位及び国・地域（ ）は前年順位	平成29年	平成28年	増減	構成比	前年比
1 (1) オーストラリア	10,880,081	11,812,425	-932,344	33.6%	92.1%
2 (2) 中国	4,423,579	4,060,605	362,974	13.6%	108.9%
3 (3) 韓国	3,802,754	3,383,416	419,338	11.7%	112.4%
4 (8) カナダ	2,558,856	1,277,526	1,281,330	7.9%	200.3%
5 (6) 台湾	1,668,314	1,724,829	-56,515	5.1%	96.7%
6 (4) インドネシア	1,618,279	2,186,357	-568,078	5.0%	74.0%
7 (7) ロシア	1,338,254	1,560,335	-222,081	4.1%	85.8%
その他	6,146,426	6,348,552	-202,126	19.0%	96.8%
外貿合計	32,436,543	32,354,045	82,498	100.0%	100.3%

(2) 主要品種別 《輸出》

（単位：トン）

品種（ ）は前年順位	平成29年	平成28年	増減	構成比	前年比
1(1) 鋼材	1,665,591	1,451,146	214,445	22.6%	114.8%
2(2) 金属製品	982,887	1,197,451	-214,564	13.3%	82.1%
3(3) 化学薬品	618,577	613,279	5,298	8.4%	100.9%
4(4) 金属くず	564,803	393,256	171,547	7.6%	143.6%
5(5) コークス	485,656	385,003	100,653	6.6%	126.1%
その他	3,067,831	3,174,990	-107,159	41.5%	96.6%
輸出全体合計	7,385,345	7,215,125	170,220	100.0%	102.4%

(3) 主要品種別 《輸入》

（単位：トン）

品種（ ）は前年順位	平成29年	平成28年	増減	構成比	前年比
1(1) 石炭	8,419,537	8,790,473	-370,936	33.6%	95.8%
2(2) 鉄鉱石	7,857,628	7,815,853	41,775	31.4%	100.5%
3(3) LNG(液化天然ガス)	3,069,640	2,999,180	70,460	12.2%	102.3%
4(4) 自動車部品	635,536	646,507	-10,971	2.5%	98.3%
5(6) 非金属鉱物	592,587	569,168	23,419	2.4%	104.1%
その他	4,476,270	4,317,739	158,531	17.9%	103.7%
輸入全体合計	25,051,198	25,138,920	-87,722	100.0%	99.7%

(4) 主要品種別 《移出》

（単位：トン）

品種（ ）は前年順位	平成29年	平成28年	増減	構成比	前年比
1(1) 完成自動車	24,277,552	23,245,140	1,032,412	74.5%	104.4%
2(2) セメント	1,406,775	1,408,472	-1,697	4.3%	99.9%
3(4) 鋼材	1,349,443	1,177,782	171,661	4.1%	114.6%
4(5) 石炭	1,069,845	977,821	92,024	3.3%	109.4%
5(3) コークス	1,007,905	1,227,782	-219,877	3.1%	82.1%
その他	3,487,675	3,146,617	341,058	10.7%	110.8%
移出全体合計	32,599,195	31,183,614	1,415,581	100.0%	104.5%

注)完成自動車には、フェリーによる輸送を含む。

(5) 主要品種別 《移入》

（単位：トン）

品種（ ）は前年順位	平成29年	平成28年	増減	構成比	前年比
1(1) 完成自動車	25,277,936	23,901,977	1,375,959	69.3%	105.8%
2(2) 鋼材	3,364,374	3,265,611	98,763	9.2%	103.0%
3(4) 石灰石	1,243,535	1,192,936	50,599	3.4%	104.2%
4(3) 石油製品	1,224,887	1,264,461	-39,574	3.4%	96.9%
5(5) 非金属鉱物	697,988	681,096	16,892	1.9%	102.5%
その他	4,655,911	4,683,395	-27,484	12.8%	99.4%
移入全体合計	36,464,631	34,989,476	1,475,155	100.0%	104.2%

注)完成自動車には、フェリーによる輸送を含む。

国際コンテナ貨物取扱量

(1) 相手国（地域）別

(単位：TEU)

順位及び国・地域 ()は前年順位	平成29年 輸出				平成29年 輸入			
	貨物量	前年との増減	構成比	前年比	貨物量	前年との増減	構成比	前年比
1(1) 中国	91,143	5,603	35.2%	106.6%	106,229	7,131	44.1%	107.2%
2(2) 韓国	91,040	15,893	35.1%	121.1%	75,499	12,487	31.3%	119.8%
3(3) 台湾	39,031	-6,652	15.0%	85.4%	30,879	-2,393	12.8%	92.8%
4(4) 中国(ホンコン)	13,783	428	5.3%	103.2%	12,067	1,824	5.0%	117.8%
5(5) タイ	7,549	-1,143	2.9%	86.8%	7,186	-2,731	3.0%	72.5%
その他	16,827	-1,344	6.5%	92.6%	9,135	1,339	3.8%	117.2%
合計	259,373	12,785	100.0%	105.2%	240,995	17,657	100.0%	107.9%

注) 上記数値には、空コンテナを含む。

(2) 主要品種別 《輸出》

(単位：TEU)

品種 ()は前年順位	平成29年	増減	構成比	前年比
1(2) 化学薬品	25,156	1,897	13.3%	108.2%
2(1) 自動車部品	23,996	-2,503	12.7%	90.6%
3(3) 染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	20,527	121	10.9%	100.6%
4(4) ゴム製品	20,215	3,077	10.7%	118.0%
5(5) 産業機械	15,764	1,766	8.3%	112.6%
6(7) 鋼材	14,926	2,764	7.9%	122.7%
7(6) 再利用資材	12,647	-1,346	6.7%	90.4%
その他	55,858	4,229	29.5%	108.2%
合計	189,089	10,005	100.0%	105.6%

注) 上記数値には、空コンテナを含まない。

(3) 主要品種別 《輸入》

(単位：TEU)

品種 ()は前年順位	平成29年	増減	構成比	前年比
1(1) 自動車部品	49,366	1,375	23.3%	102.9%
2(2) 家具装備品	16,840	556	8.0%	103.4%
3(3) 化学薬品	13,196	1,658	6.2%	114.4%
4(4) 金属製品	10,448	1,252	4.9%	113.6%
5(7) 電気機械	10,409	2,091	4.9%	125.1%
6(6) 染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	9,214	787	4.4%	109.3%
7(5) 衣服・身廻品・はきもの	8,574	138	4.0%	101.6%
その他	93,668	6,128	44.3%	107.0%
合計	211,715	13,985	100.0%	107.1%

注) 上記数値には、空コンテナを含まない。



北九州港に関するトピックス

1 船社の動き

〈邦船コンテナ3社が経営統合し、航路を集約〉

平成28年10月に日本郵船、商船三井、川崎汽船がコンテナ部門の経営統合を決定し、平成30年4月に新会社をスタートさせることを発表。それ以降、各社が既存航路の見直しを進めている。

〈韓国船社14社が海運連合結成、航路集約の動き〉

平成28年8月に韓国のフラッグキャリアだった韓進海運が経営破綻し、同国の海運ネットワークは国際競争力が大きく低下し、再編を迫られた。そこで、韓国政府主導で海運業界14社をまとめ、平成30年1月、韓国型海運同盟「韓国海運連合」が結成された。

このため、各社の航路を見直し、船腹の融通・調整を図る等の合理化を進めている。

2 臨海部の用地売却が好調

前年に引き続き、平成29年度も臨海部の用地への引き合いが活発で、分譲も好調であった。

具体的には新門司地区では6件、響灘地区では2件、日明地区1件で、合計9件、金額で約31億9千万円となった。

分譲率では、新門司地区が85%（貸し付けを含めると91.2%）。響灘地区は94.7%となった。

3 北九州港初の国際定期RORO航路を「小倉ROROターミナル」に開設

「カメラライン」が、北九州港では初となる国際定期RORO航路を開設。高速性、定時性に優れた本航路は、自動車・産業機械等の製造業にとってタイムリーな輸送が可能となり、さらには、東九州自動車道沿線の生鮮品等の輸送が期待されている。

(概要)

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 船会社 | カメラライン株式会社
(日本郵船、高麗海運が出資) |
| (2) 航路 | 北九州港(小倉ROROターミナル)
～釜山新港(週6便) |
| (3) 開設日 | 平成30年4月3日(月) |
| (4) 主な貨物 | 自動車部品、半導体製造装置等 |



4 世界1位のコンテナ船社が「ひびきコンテナターミナル」に航路開設

船腹量世界1位のコンテナ船社である「A・Pモラー／マースク」のアジア専門子会社の「MCCトランスポート」が、ひびきコンテナターミナルと韓国・釜山新港を結ぶ航路を4月9日に開設。マースクグループのグローバルなネットワークを活用した、集貨への好影響が期待される。

(概要)

- (1) 船会社 MCCトランスポート
(A・Pモラー／マースクのグループ会社)
- (2) 航路 ひびき(月) - 釜山新港(火) - 博多(水)
- 門司(木) - 名古屋(土)
- (3) 開設日 平成30年4月9日(月)(週1便)
- (4) 主な貨物 ゴム製品等



5 邦船コンテナ船統合会社が「太刀浦コンテナターミナル」に航路開設

邦船3社のコンテナ船事業の統合会社「ONE(オーシャン・ネットワーク・エクスプレス)」が、門司と韓国・台湾・ベトナムを結ぶ航路を4月8日に開設。

(概要)

- (1) 船会社 ONE(日本郵船、商船三井、川崎汽船が出資)
- (2) 航路 門司 - 博多 - 釜山新港 - 台湾 - ベトナム - 横浜 - 東京 - 清水 - 名古屋 - 神戸
- (3) 開設日 平成30年4月8日(日)(週1便)
- (4) 主な貨物 自動車部品、ゴム製品等

6 大型クルーズ船が続々入港

平成29年は門司に8隻、ひびきコンテナターミナルに25隻の合計33隻入港し、乗降人数は92,249名であった。中でも、アジア最大級の16万トン級の船が延べ12隻、ひびきに入港した。



今年も4月時点で既に5隻が入港しており、総数でも昨年と同程度の入港が予定されていて、市内での消費が期待されている。